

環境に配慮したNシリーズ 「N-CASE」「N-コンテナ」で 循環型リサイクルモデルを創出



N-CASE



N-コンテナ

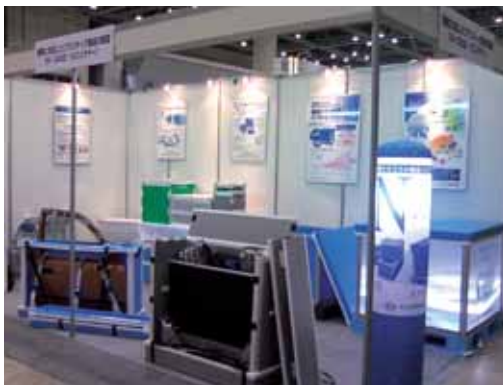
中山産業株式会社

新発想のNシリーズで プラスチックケース業界に 旋風を巻き起こす

環境への意識が高まる昨今、自然環境にやさしいプラスチック製品で注目を集める企業がある。

中山産業の主力商品「N・CASE」は、プラスチックダンボールとアルミ材でできた軽量かつ、折り畳み可能なケース。耐荷重圧270kgという頑丈さと、低コスト、省スペース性等が評価され、工場内の通い箱等に重宝されている。また、樹脂製のため水濡れやサビにも強く、ダンボールと違って繰り返し使用できるという特長から、精密機器ケースや保管箱をはじめ、幅広い用途に使用されている。

また同社では、「N・CASE」を大型パレットサイズへと応用した「N・コンテナ」も開発した。壁面となるPP樹脂をパレット上で組み合わせることでコンテナになる。女性一



人でも組み立てられる手軽さも受け、主に重量物梱包に強みを発揮するヒット商品となっている。

繰り返し使用することで物流コストの削減を実現できる「N・CASE」と「N・コンテナ」だが、可能性はこれだけにとどまらない。同社は、使用後の製品を回収しパートナー企業にて再資源化するという、ゼロ・エミッションの循環型リサイクルシステムを確立しているのだ。

「今後、CO₂削減に取り組むことにより、企業は様々なメリットを得られるようになっていくはずだ。Nシリーズを循環型リサイクル商品へと進化させることで、カーボンオフセットやゼロ・エミッションという新たな付加価値の創出を目指しています」と話すのは中山和久社長だ。

下請けから脱皮し 新たなステージへ進化

今でこそ、時流に乗った環境ビジネスを進める同社だが、昭和38年の設立当初は温度ケースやフィルム用の紙管キャップ等の自社製品と、大手企業の下請け会社としてプラスチック部品の製造のみに特化していた。

「プラザ合意による円高等、数々のピンチをアイデアで乗り越えてきました。近年では、主要取引先だった大手電機メーカーが中国へ進出。下請けの当社には大きな転換期でした。そこで、どうしても新規製品を持ちたいと開発したのが「N・コンテナ」だったんですよ」と中山社長は振り返る。開発には、技術力を持った外注工場等、下請け時代に蓄積したパ

トナー企業とのネットワークをフル活用。現在も、多くのパートナーと、開発や生産、資材調達を協力を行うことで、それぞれの強みを活かす強力なバリューチェーンを形成している。「不況と言われる世の中ですが、再利用できる製品を提供する当社には、大きなチャンス。Nシリーズのアジア市場への展開や、新商品の開発等を進めたいですね」と中山社長。多くの危機をチャンスに変えてきた同社の経験が、今まさに活かされるときである。

主な事業内容

合成樹脂製品
の製造・加工・資
材の製造・加工・
販売・産業資材
樹脂コーティング
加工、化学薬品
卸等



中山和久さん
代表取締役社長

Company Profile

中山産業株式会社

住所 / 532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島4-10-19

創業 / 昭和34年5月

設立 / 昭和38年12月

資本金 / 1,500万円

従業員 / 8名 (平成21年1月現在)

T E L / 06-6304-6108

F A X / 06-6304-6148

大阪
20

<http://www.nakayama-ind.co.jp/>